

兵高教組

2025年6月20日

調査情報10号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745 FAX : 078-351-3185

URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>

mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

新採用者で内示段階での辞退を含め、県下85校中36名も未充足 今年も深刻！教職員未配置、生徒に悪影響

県教委・校長の努力だけでは最早限界、国による抜本的施策が必要

高教組は、6月13日、兵庫教組と共に、県庁にて5月1日時点での教職員未配置について、記者会見をしました。神戸市立校を除く85校から回答があり、28校で36名(高校24名、特別支援12名)の未配置(6月から2名解消で現在34名)が組合員からの報告でよせられました。まだ報告のない学校もあり、実態はもっと深刻なはず。県教委や校長も必死に探している努力は評価しますが、最早限界と思われます。国による法改正による予算措置の伴う抜本的な施策が必要です。

未配置で他の教職員に負担がかかり、

負担を負っていた教職員が病気休職に

これは県立高校からの報告です。当該校だけでなく、昨年も一昨年も複数の学校で見られた事案です。病気休職からそのまま退職に追い込まれた教職員もおられます。

病気休職者等の代替教職員が未配置なため、その分の業務が増え過密労働が常態化します。例えば、授業担当時間は、県教委の設定している週平均14～16時間(高校)を大幅に超えて、20時間以上も受け持っている教職員もいます。授業準備(1授業に1～3時間は最低必要)を考えると、かなりの負担です。

児童が落ち着いて学校生活を送れない。

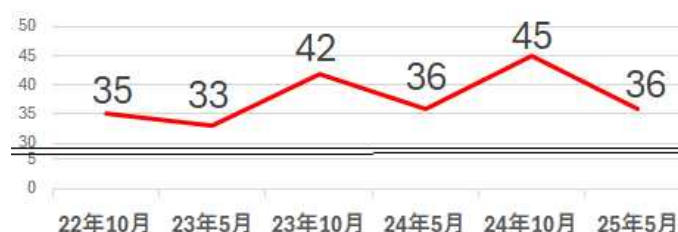
情緒不安定で泣き叫ぶ子が多い。

これは特別支援学校からの報告です。このクラスでは、同じクラス担任2名が、休職者の代替未配置者分の業務を請負い、休日にも出勤し過労でダウンしました。また、別の特別支援学校では、児童が「また先生来なくなったわ…今年もか」と2年連続の未配置状態に「慣れた(慣らされた)」状態になっています。

児童にも教職員にも深刻な事態です。責任は校長と県教委ですが、「校長は求人を出したり、退職教職員に連絡を取ったり…補填の目処が立たない模様」との報告もあります。



兵庫県内公立高校・特別支援学校未配数推移



「改正」給特法の廃案等、抜本的施策が必要

「改正」給特法(公立の義務教育諸学校の教育職員の給与等に関する特別措置法)では、教職員に残業手当支給の制度はなく、超勤縮減のための人員増等は法の本文にありません。これでは、ブラックな公立学校の労働環境は改善しません。

本来、学校現場にはやりがいが多くあります。生徒と共に学び考える楽しさ、進路で悩みを共に考える等、数え切れないことがあります。しかし、現在の労働環境では、定年まで働けるのかという不安、教職員を志していた大学生が進路変更をしている等、多くの問題が長時間過密労働から現れています。

今後も高教組は労働環境改善のため、以下を国に要求し、全国の仲間と共に闘っていきます。

- ・20人程度の少人数学級の実現
- ・教職員一人あたりの持ち時間数減
- ・教職員基礎定数の改善
- ・高校統廃合の撤回

声を上げれば変えられます。全国には仲間がいます。組合だからできること、仲間と共に声を上げましょう！

← 6/13 共同記者会見の様子。右は兵庫教職員組合書記長、中央は未配置を考える県民の会会長、左は兵庫高教組書記長です。読売新聞、毎日新聞、神戸新聞、日経新聞の4社が参加され、熱心に取材してくれました。

高教組が2月県議会に請願した「県として、国に対して公立学校の教職員未配置解消のための施策に早急に取り組むことを求める件」は継続審議となっています。